

【生薬名】 浙貝母 *FRITILLARIAE BULBUS*

【起源植物】 アミガサリ *fritillaria verticillata* var. *thunbergii*



【科名】 ユリ科Liliaceae

【別名】 編笠百合、生薬は浙貝母(輸入の大部分)と川貝母(中国で食用)

【薬用部分】 鱗茎

【主成分】 アルカロイド(ペイシ、ペイニシ、ペイシシなど)

【薬性】 気味は苦寒、帰経は心肺に属す

【効能】 ●開泄肺氣・清熱散結

●鎮咳作用、アトロピン様作用、降圧作用、子宮興奮作用を有す。

●咳、痰に煎服

●浙貝母は燥性が激しく、清熱の効能も強いいため急性の風熱の咳嗽に向き、川貝母は薬性もおだやかで小児や慢性の咳嗽、元気のない肺燥の咳嗽に適している

●急性の咳嗽に用い特に風熱の感冒・急性上気道炎・気管支炎・肺炎など熱象が強く咳嗽・口乾・喉痒・黄粘稠な痰などにより

●化膿症、特に乳腺炎の治療に補助薬として用いると良い

●浙貝母は多めに使う、1日3～5g、瘰癧には6～10g

【出典】 ●貝母、一名空草、味辛平、治傷寒煩熱、淋瀝邪氣、疝瘕、喉痺乳難、金創風瘕、(神農本草經中品)

●貝母 微寒、嗽を止め、痰を化し、肺癰、肺痿、鬱を開き煩を除く。(薬性歌)

【備考】 ●貝母は石灰にまぶして乾燥させる、理由は不明

●中国ではアミガサユリの鱗茎は大半は食後のデザート用

●古人は浙貝母は散結の効能があるとしているが機序は不明

●日本産大和貝母は中国産の浙貝母(浙貝)にあたる

【処方例】 ●当帰貝母苦参丸、桔梗白散、養肺湯、滋陰至宝湯、清肺湯